

# Community Edition

## 日本語インストール ガイド



## 目次

1. はじめに.....	1
2. インストールする前に必要な環境の確認 .....	1
2.1. ハードウェア .....	1
2.2. インターネットブラウザ .....	1
2.3. Java Virtual Machines (JVM) .....	1
3. Bonita BPM インストール・ファイルのダウンロード.....	2
4. インストール.....	2
4.1. 表示言語の選択 .....	2
4.2. セットアップの開始 .....	3
4.3. 使用許諾契約の同意 .....	4
4.4. インストール・ディレクトリの決定 .....	5
4.5. 以前のバージョンで作成した成果物のインポート.....	6
4.6. インストールの完了.....	9



### 3. Bonita BPM インストール・ファイルのダウンロード

Community Edition は、次の 32 ビットと 64 ビットがあるので、JRE のビット版に一致するものを選択します。

ダウンロードファイル名:

- 32 ビット OS: BonitaBPMCommunity-6.r.p-x86.exe
- 64 ビット OS: BonitaBPMCommunity-6.r.p-x86\_64.exe

r: リリース番号

p: パッチ番号

例えば、64 ビット OS 上に 6.2.5 のバージョンをインストールする場合は、「BonitaBPMCommunity-6.2.5-x86\_64.exe」をダウンロードします。

ダウンロードにかかる所要時間は最速、1 分です。

### 4. インストール

インストールは最短、約 1 分 45 秒で完了します。

#### 4.1. 表示言語の選択

インストールを開始すると図1のバージョン番号が表示されます。



図 1: 最初に表示されるバージョン番号

次の図 2 から図 4 にしたがって、UI の表示言語を日本語に選択します。

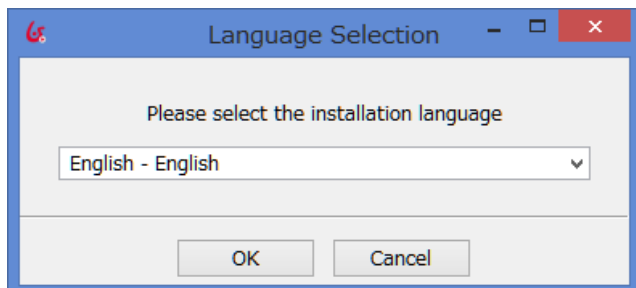


図 2: UI の表示言語の選択

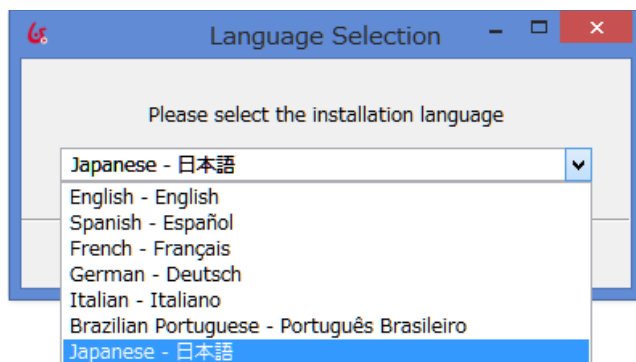


図 3: UI の表示言語に日本語を選択しているところ

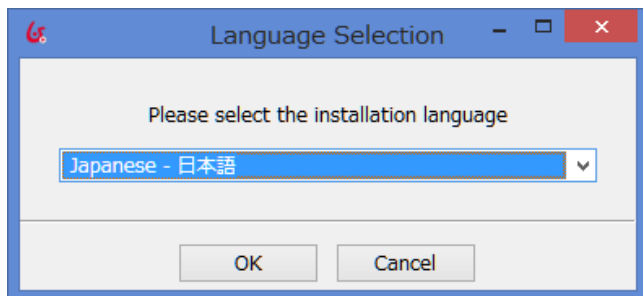


図 4: UI の表示言語に日本語を選択

## 4.2. セットアップの開始

次の図 5 が表示されてからセットアップが始まります。



図 5: セットアップの開始確認

### 4.3. 使用許諾契約の同意

次の図 6 の表示されている「GNU GENERAL PUBLIC LICENSE (参考和訳: [GNU 一般公衆利用許諾書](#))」に同意します。  
※和訳は、あくまで参考資料であり、法的には無効です。



図 6: 使用許諾契約の同意

## 4.4. インストール・ディレクトリの決定

図 6 の「使用許諾契約」に同意すると図 7 のインストール・ディレクトリが表示されます。Bonita BPM 6 のインストール・ディレクトリの標準名は「BonitaBPMCommunity-6.r.p」となっています。このディレクトリ名内のバージョン、リリース、パッチのそれぞれの番号を識別できるので、改名しないことをお勧めします。見直し・変更する必要があるのは、ドライブ名とルートディレクトリ名のみです。

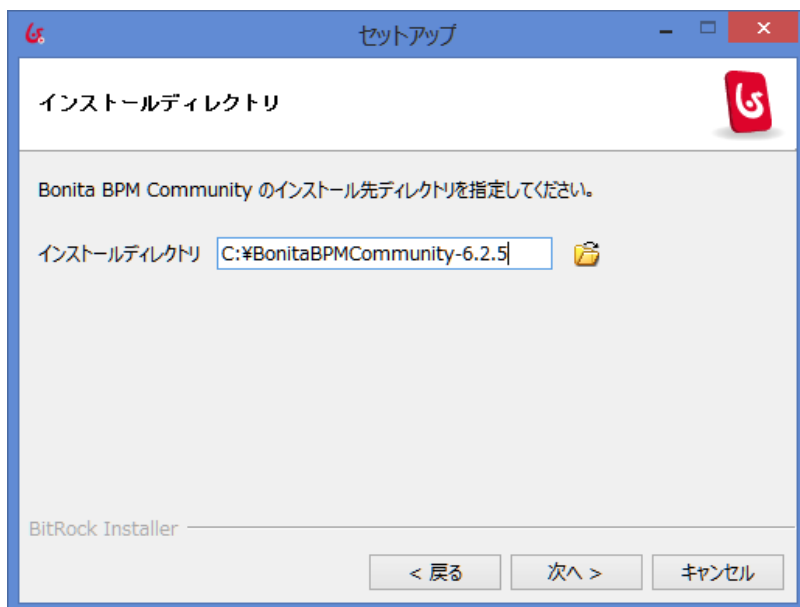


図 7: インストール・ディレクトリの指定

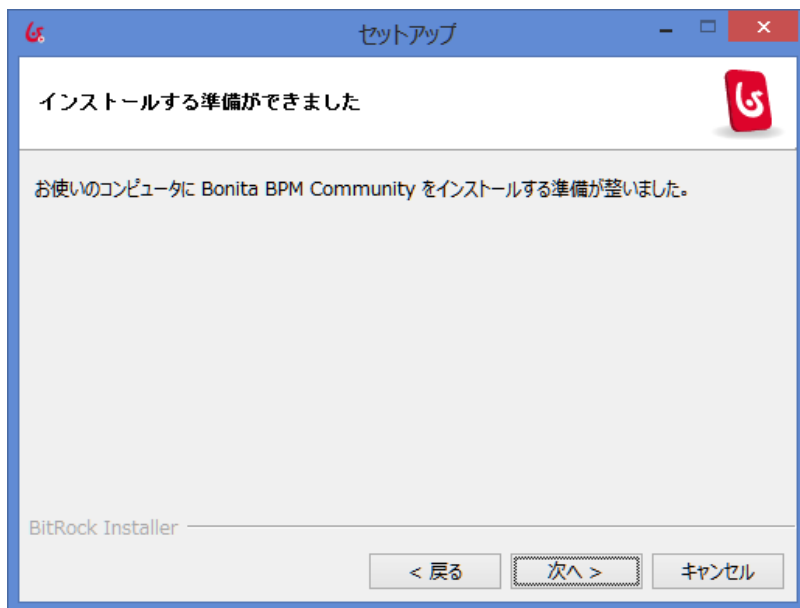


図 8: インストールの開始確認



インストールが開始すると図 9 のダイアログが表示されるので、インストールの進行過程を目視できます。

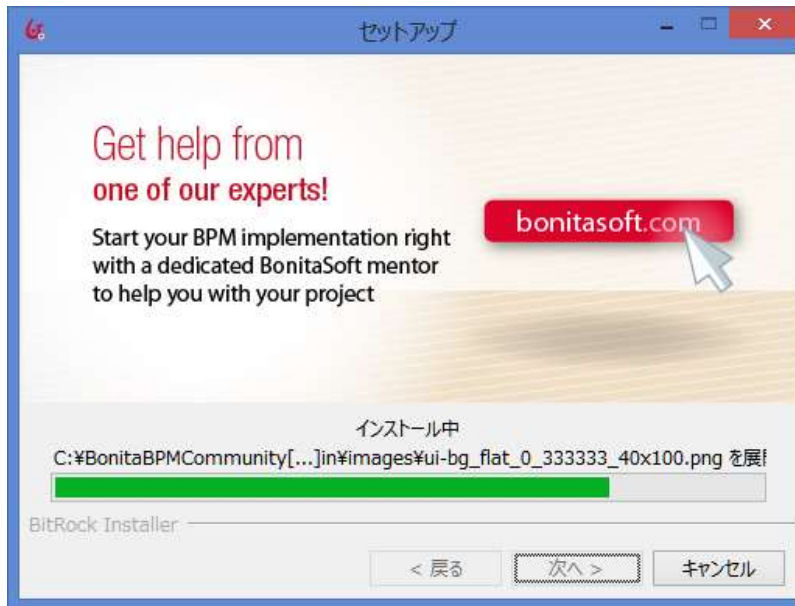


図 9: インストール作業中

#### 4.5. 以前のバージョンで作成した成果物のインポート

インストール作業が終了すると図 10 のダイアログが表示されます。この画面では、「以前のリリースで作成したデザイン成果物を新しくインストールしたバージョンのワークスペースにコピーするか？」と質問しています。

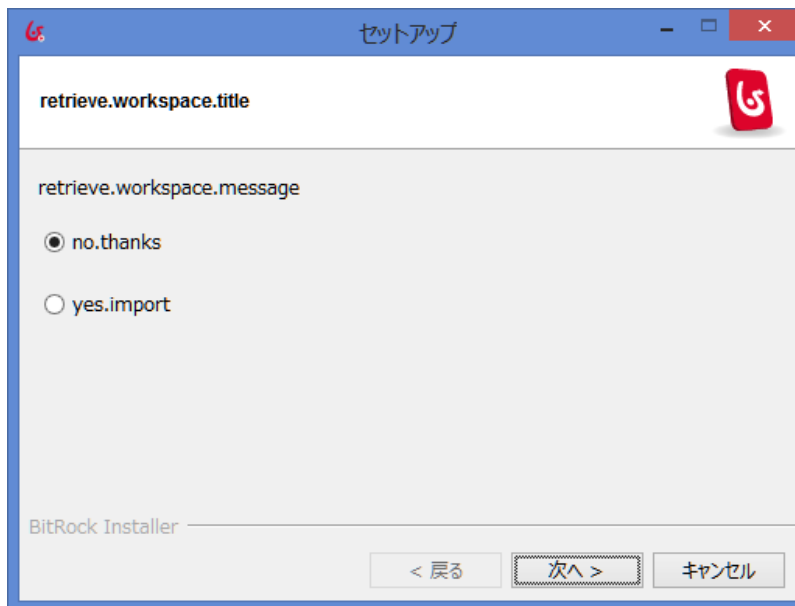


図 10: 過去のバージョンで開発した成果物の移行確認

ラジオボタンは次の答えを求めています。

- no.thanks → コピーしない(デフォルト)
- yes.import → コピーする

以前のリリースで作成したデザイン成果物があり、それらを今回インストールしたバージョンにインポートさせたい場合は、図 11 のように「yes.import」を選択します。「no.thanks」を選択した場合は、「4.5 のインストールが完了」に飛びます。

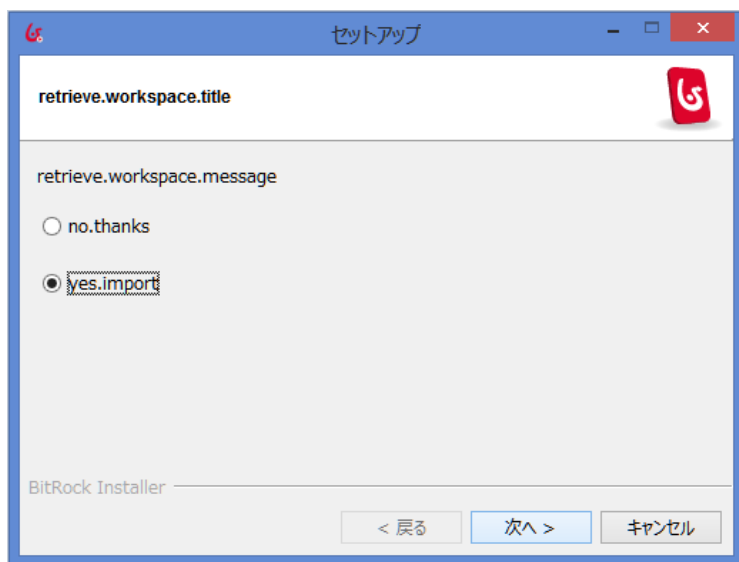


図 11: 過去のバージョンで開発した成果物を移行する場合

「yes.import」を選択した場合は、過去のバージョンのインストール・ディレクトリを図 12 のように選択します。

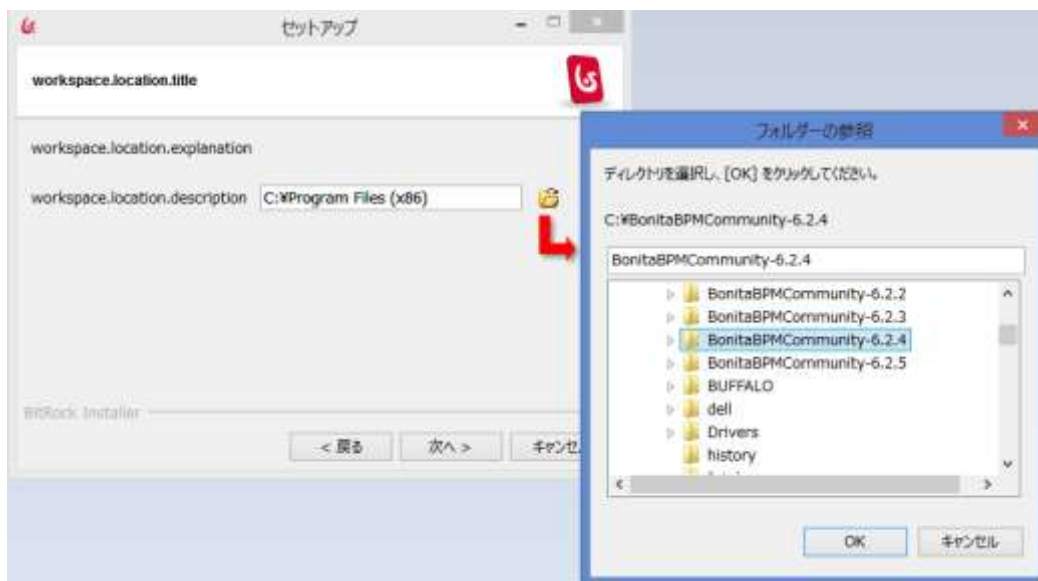


図 12: 過去のバージョンのディレクトリを指定

ここで注意すべきことは、ワークスペースのロケーションではなく、インストール・ディレクトリを指定することです。

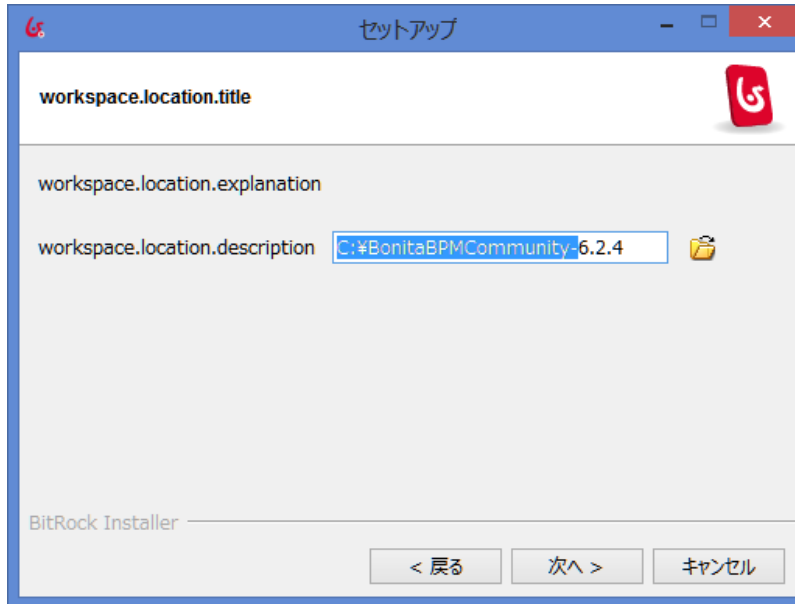


図 13: 過去のバージョン・ディレクトリの確定確認

インストール・ディレクトリの指定が完了すると図 14 のプログレスが表示され、旧から新へ開発ソースのエクスポート/インポートが自動で開始されます。

新バージョンで Bonita システムの機能変更あれば、互換性を持つソースに自動変更されます。

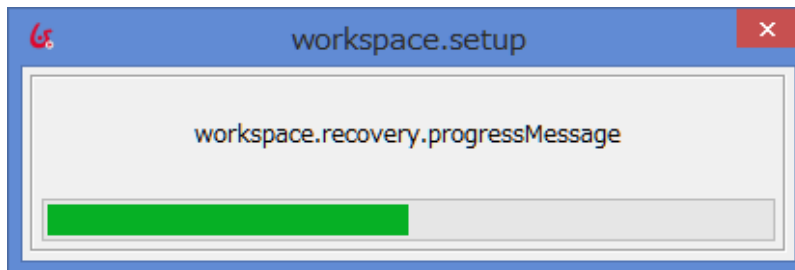


図 14: 過去のバージョンで開発した成果物を移行中

## 4.6. インストールの完了

図 15 の画面が表示されれば、インストールは完了です。



図 15: セットアップウィザードが終了

「終了」ボタンを押すと図 16 の Web サイト表示と図 17 の Bonita BPM Studio 初期画面が表示されます。

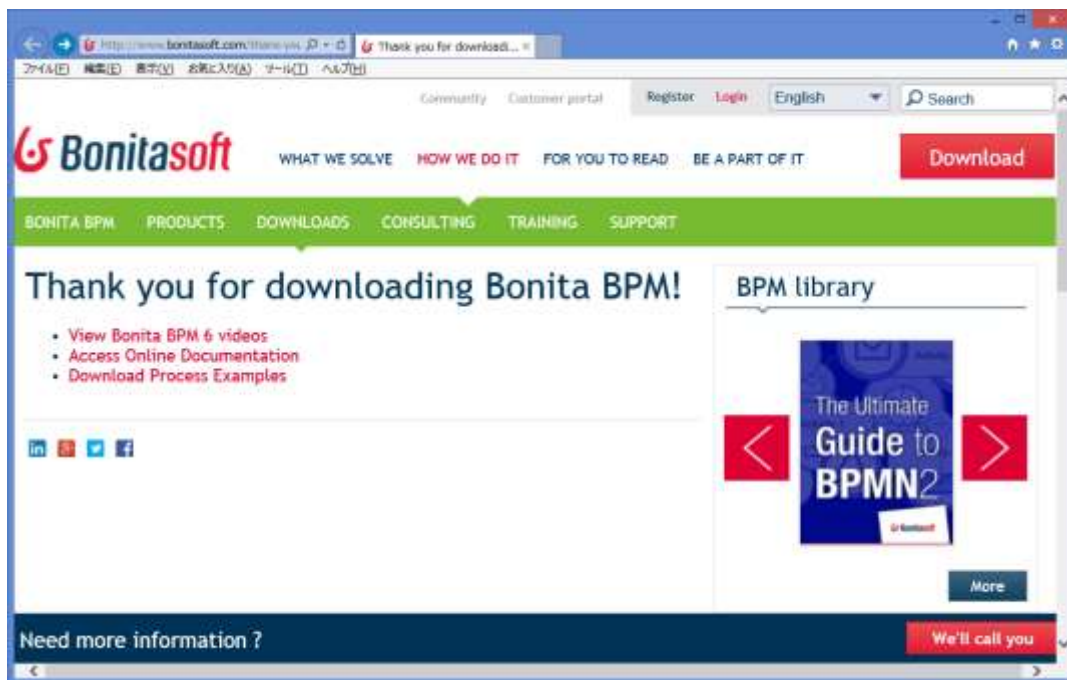


図 16: Bonitasoft の Web サイト表示

その後、ユーザー登録認証画面が現れますから、必要事項を入力してください。

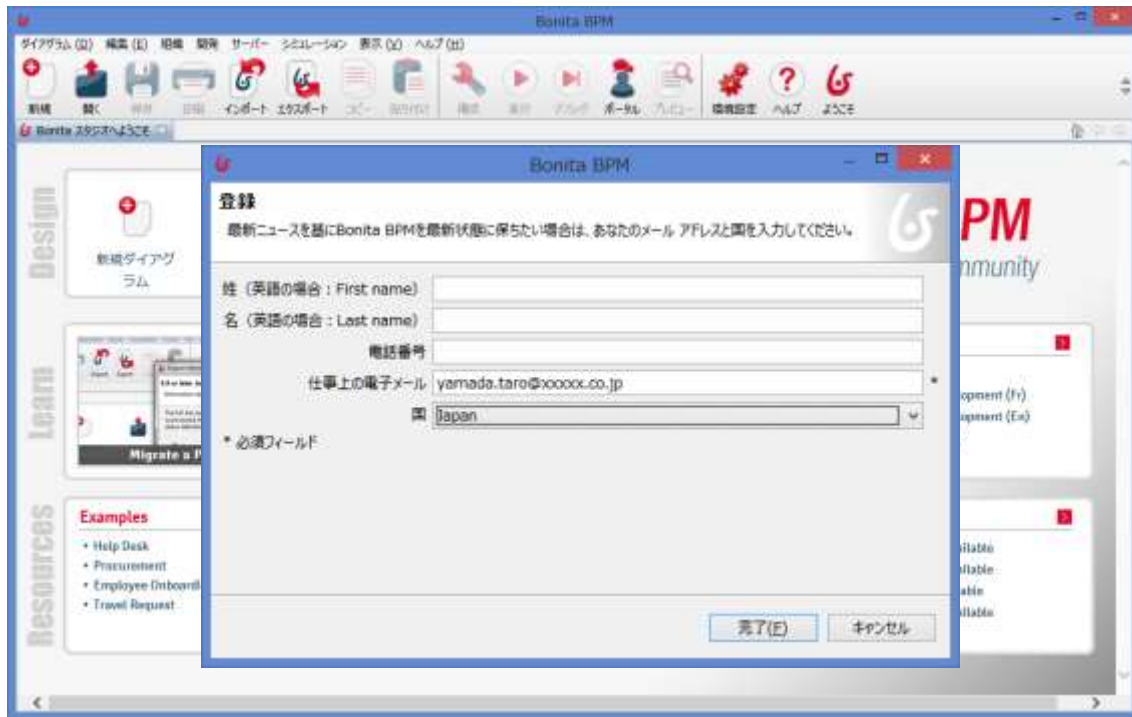


図 17: 起動した Bonita BPM Studio とユーザー登録認証

これでインストールに必要なすべての作業は完了です。

以上